

わかくさ

W A K A K U S A

伸びよう伸ばそう青少年 ～心豊かな青少年を育てるために～



〈題名〉 母校の風景 新利根中学校 1年 やまなか まゆ 山中 舞優 さん



発行 青少年育成稲敷市民会議

事務局 稲敷市教育委員会

生涯学習課内

TEL 029-892-2000 (代)

会員数 7,822世帯 (令和7年2月現在)

令和6年度 第18回 稲敷市 青少年の主張大会 ダイジェスト



令和6年11月16日(土)、江戸崎中央公民館において、第18回稲敷市青少年の主張大会が開催されました。

小学生4名、中学生4名、高校生2名、計10名が日常生活の中で感じたことや考えていること、自信と誇りを持って将来に向かっていくことなど、それぞれの思いを堂々と力強く発表していました。

発表者の胸元には、江戸崎総合高等学校グリーンテクノ系列の生徒が制作したクリスマスのコサージュと、大切に育てた4種類のとてもきれいなポインセチアがステージを明るく装飾しました。

未来を担う青少年の声をお聞きください

小学生の部

1 言い返されても あきらめない

江戸崎小 六年 菅谷 寧音

「関係ないでしょ。」これは、友達の間で口げんかを止めようとしたとき、毎回のようにならされた言葉です。あるとき、仲のいい友達同士で口げんかが始まり、これまでの楽しい時間が急変しました。せっかく仲良く楽しく過ごしていたのに、一気に無駄になってしまいました。(こんなことがあつてはならない。)と思い、このときから、私は、口げんかを見かけたら、絶対に止めようと思いました。

あるとき起きた口げんかで、周りのみんなが戸惑っていました。私は、「ケンカはやめようよ。みんな困っているよ。」と言いました。すると、返ってきた言葉が、「関係ないんだから入ってこないで。」この言葉に胸が痛くなりました。勇気を出して言ったのに。しかし、あるとき、口げんかを一緒に止めにはいつてくれた友達がいました。私は、(やっぱり、やってきたことは間違いないやなかったんだ。)と自信がわきました。

今は、口げんかはありません。大好きな友達との時間を大切にしたいという思いで始まり、仲間とともに今日まで続けてきてよかったと思いました。



2 人

新利根小 六年 松浦 彩愛

私には五才年下の弟がいます。弟は、負けず嫌いで何でも一番にならないと気がすまない子です。私も負けず嫌いなので、よく弟と競争することがあります。すると母から、「お姉ちゃんだから小さい子にゆずりなさい。」と怒られます。このような経験を通して、私は今回、「人」について改めて考えてみました。人は、誰でもいろいろな考えや個性を持っています。同じ考え方をしている人も全く同じ心をもっているわけではありません。性格も全員が同じわけではありません。人生すべてが思い通りにいくわけではありませんが、絶対に楽しいときはあります。また、何かを失敗してしまえば、やり直したいと思うことがあっても、その失敗もふくめて今の自分になっていると思います。大人気なく弟と競争し、母に姉だ



からという理由で怒られて、悔しかった
思いも全部含めて私になっています。
完ぺきな人間は一人もいませんし、だ
からこそ人は、支え合って生きているの
だと思います。私は、この世界を個性や
心を大切にしながら支え合って生きてい
きたいです。

3 半径五メートルの幸せ

あずま東小 六年 今泉 志歩子

みなさんは、「平和な世界」と聞いたら、
どんな世界を想像しますか。私が考え
る「平和な世界」は、「戦争のない世界」
です。最初に調べたのは、戦争が起こる
原因です。戦争は、民族・宗教・領土な
どの争いがきっかけで起こることが分か
りました。また、母が、戦争を経験した
私の曾祖父のことを話してくれました。
「戦争より怖いものはないんだよ。」これ
が、曾祖父の口癖だったそうです。戦争
を経験した曾祖父の言葉だからこそ、と
ても心にしみたと母が言いました。ある
時、私は学校で、「半径五メートルの法則」
という言葉に出会いました。人は、生活
環境の半径五メートル以内で人間関係を
構築しているということです。半径五メー
トル以内の人たちを幸せにすることが、
平和な世界の創造に向けた第一歩だそう
です。

私は、「半径五メートルの幸せ」が世界
を平和にする第一歩になると信じていま
す。そしていつか、国も民族も宗教も超

えて、たくさんの人々の優しさが広がり、
世界中が戦争のない平和な世界になるこ
とを願っています。

4 私たちが今できること

あずま北小 六年 有馬 愛桜

海洋汚染には主に五つの原因がありま
す。その中でも特に気になるのが、「生活
排水」と「海洋プラスチックごみ」を原因
とするものです。

まず「生活排水」です。私は学校で、
霞ヶ浦の水質について学びました。「使用
済みの天ぷら油二十ミリリットルを川に
流すと、魚が住める水にするために、お
風呂二十杯分の水が必要」ということで
した。

次に、「海洋プラスチックごみ」です。
海に捨てられるごみの量はどのくらいな
のでしょうか。なんと年間八百万トンもあ
ります。ニュースで砂浜をうめつくすよう
な大量のごみがあるのを見て、私はしょ
うげきを受けました。

簡単にごみを捨てない、ごみが落ちて
いたら拾う、使わなくなったものは再利
用してもらうなどして、ごみを減らして
いくことが大切だと思います。

私たちがができることは小さなことで
す。しかし、それを積み重ねていくこと
がSDGsの目標達成の第一歩となるので
はないでしょうか。これからも自分がで
きることを見つけて、地球の環境を守っ
ていきたいと思っています。

中学生の部

5 SDGsと私たち

江戸崎中 二年 神保 宥介

小学校の授業やニュース番組で環境問
題について知るたびに意識が高まり、自
然ともつと関わっていきたく思うようにな
り、住んでいる地域で自然に関する活
動をしていることを知りました。そこで
去年、その地域ごみ拾いに参加しました。
一番多く感じたのは、飲み物の缶やプラ
スチック容器です。

SDGsの目標十五「陸の豊かさを守る
う」では、陸上や淡水地域の生態系、自
然の恵みを守り持続可能な形にすること
が挙げられています。陸は私たちが主に
生活する場所なので、とても身近な目標
と言えるでしょう。

ごみを捨てる時も買う時と同じように
考えてみると、何を買うかは「何を捨て
るか」ということではないでしょうか。ま
だ、使える物は残しておいたり、リサイ
クルショップなどに持って行ったりすると良
いと思います。どこで買うかは「どこに



捨てるか」ということにつながります。しっ
かりごみ箱へ捨てることや分別すること
でリサイクルすることができそうです。

たくさん生き物、人が住みやすい街。
そんな街にすることが私の思いです。

6 素敵な未来のために

新利根中 二年 濱田 珠実

私がAIを身近に感じるようになった
のは、小学五年生のリモート学習を体験
したときでした。その頃世界では、新型
コロナウイルス感染症が流行し、緊急事
態宣言下で、学校に行くことができま
せんでした。

緊急事態宣言が解除され、学校へ行
くことができるようになってから、友達
と一緒に遊んだり体を動かしたりしたこ
とで、リモート学習でAIを活用するこ
とはとても便利だけれど、人と直接会っ
て、人と人の温かみのある交流をするこ
とも、とても大切なことだと思いました。
AIは私たちの現在の生活に欠かせない
存在になっています。しかし、AIに頼っ
てばかりいると人間は成長できなくなっ
てしまいます。人の気持ちを理解できる
人間と、効率的に仕事のできるAIには、
それぞれ長所と短所があります。人間
とAIが互いの良さを生かして、足りな
いところを補い合い、共存することがで
きたら、今以上に素敵な未来になるの
ではないでしょうか。私はそんな未来が
楽しみです。



7 意識し続けること

桜川中 二年 飯嶋 真由

意識し続けることで、できなかったことができるようになる。それは、私がこれまでの学校生活や自宅での体験を通して感じたことです。まずは、挨拶に関する出来事です。中学校に入學したばかりの頃、私は声が小さかったこともあり、挨拶が苦手でした。そんなある日、私が入った委員会で「あいさつ運動」という活動が始まりました。それは朝、学校の昇降口に並んで、登校してくる人たちに「おはようございます」と挨拶をするという活動です。初めの頃は、勇気がもてず、自分から挨拶できないことがよくありました。しかし、自分から挨拶をすることを意識しようと思いました。「自分から」を意識してしばらくすると、私は声が大きくなり、驚くほど挨拶ができるようになりました。すると、あいさつ運動だけでなく、教室などでも、誰かに会うとずっと声が出るようになったのです。「自分から」を意識し続けたことで変化が起こりました。そして、私の苦手だった「返事」でも意識し続けることで変化が起こりました。このように「ほんの少しの意識でも、意識し続けると、できなかったことができるようになる」ということを実感したのです。

8 挨拶の力

東中 二年 関 義孝

入学式を終え、初めての登校日となったあの日。慣れない環境への不安や緊張に支配され、どうしていいかわからなくなっていました。その時、「おはよう！」という声が、後ろから聞こえてきました。それは、同じ小学校出身の同級生からの挨拶でした。この挨拶が聞こえた瞬間、私の頭の中の霧はスッと晴れていったような気がしました。友人からの挨拶は、重りのように支配していた不安や緊張を全て吹き飛ばし、中学校生活の最初の一步を踏み出せなかった私に、勇気をもたらしてくれたのです。この時、「ああ、挨拶とはこれほどまでに素晴らしいものだっただのか。」と、強く心に感じたのを覚えています。挨拶には、「人の気持ちを前向きにする力」があると思います。人を前向きな気持ちにさせるための挨拶には、相手を思いやる「愛」が必要です。私は、あの日の朝の出来事をきっかけに、友達と会った時、先生方と廊下ですれ違う時、部活動を行う時、外出する時など、様々な場面で、気持ちのよい挨拶ができるように、いつも心掛けています。そしてこれからも、大きな声で、はつきりと、相手へ「愛」が伝わるように、挨拶をしていきたいと思っています。



9 社会に向けて

江戸崎総合高 二年 高須 美羅唯

私たちは、これからの未来を担う存在として、自分たちの主張をしっかりと社会に伝える必要があると強く感じます。初めに、環境問題についての重要性です。地球温暖化や自然災害という問題が最近、目立っていると感じます。これらの問題は、私たちの未来に大きく関わり、影響を与える可能性があります。

次に、教育の重要性についてです。私たちは、将来を担う立場として、整った環境で良い教育を受ける権利を持っています。しかし、現状では、教育格差やいじめなどの問題が存在しています。

さらに、社会問題に対する理解と関心を深めるための情報発信も大切だと感じています。SNSなどのツールを活用し、私たちの考えや意見を発信することで、社会とのつながりを強めていくべきだと思っています。

青少年の主張、私たち若者の意見は決して小さくないし、無駄なものではありません。私たちは、自分たちの未来に夢と希望を持つべきです。そのためにしっかりと責任を持ち、社会に主張を伝えていこうと思います。

10 干しいもで変える未来

江戸崎総合高 二年 福島 朔弥

私は、学校で食品に関することを専門的に学んでいます。課題研究の授業で、「さつまいもの品種の違いによる食味の調査」に取り組んでいます。五月末にサツマイモの苗を定植し、栽培管理と生育調査を行ってきました。十月頃に収穫を行い、干しいもへ加工する予定です。

能登半島地震のような非常事態では、様々な問題点が生じます。例えば、被災地において野菜が不足したり、非常食を手渡されてもその調理法が複雑でよく分からず、同じような食品しか口にできなくなったりします。そのため、ビタミンやミネラル、食物繊維などといった栄養素が不足してしまい、健康を損なうリスクが高まります。このようなことを知り、私は「干しいも」がこの問題解決の一助にならないだろうかと考えました。干しいもは保存性や栄養価が高く、腹持ちがよいため非常食に向いていると考えます。私は今後、高校の授業において、サツマイモを干しいもへ加工する予定です。その際に、幅広い方が食べやすい大きさやカットの仕方、乾燥状態の比較による食味と保存性のバランスなど、様々な干しいもの状態を試作し、将来的には非常食への応用を目指していきたいと思っています。

●主張大会で発表した全文が記載された作文集は、市役所・各公民館・図書館にあります。ぜひ、ご覧ください。

青少年の主張大会

稲敷 いなのすけ



感想文

人間の成長を考える

黒田 伸治

第18回青少年の主張大会の内容は、小学生4名は、①口げんかを止める②人は支えあつて③近くの人たちを幸せに④SDGsの目標達成！について、中学生4名は、①SDGs目標 人が住みよい街に②人間とAIは共存して③意識して実行し続ける④挨拶の大切さ！について、最後に高校生2名は、①青少年の声に耳を傾けて②干し芋を非常食へ！について主張されました。いずれの発表も堂々とした態度で原稿を見ないで発表した姿は、多くの人に感動を与えたものでした。

振り返って自分の人生を顧みると、人の前で話す事は、中学2年時、クラス委員長に指名され、体験した事が初、就職して配属先が人事教育部門で、人前で話す事が大きな仕事になりました。その過程では、必要な知識吸収の為に読書と内容取り纏め、そして発表要領の研究等を実践続けて来ました。

人間の成長は、相手に話をする事を研究する事で成される事が多いと思います。発表した方々は、この体験で大きく成長する「きっかけ」を手に入れました。今後の成長を期待します。

主張大会から学ぶもの

田所 妙子

青少年の主張大会が、毎年盛大に行われ、すばらしい発表となっています。

素直に感じたままの主張をされているのには、大変驚きです。友達関係にしても、決して臆さず、諦めず勇気を持って立ち向かう姿。流されず凛とした態度は、大

人も見習うものがあります。「自分の周りから世界平和を見つめ、幸せに気付く事、小さな事から一歩ずつ全体に広がるように、今自分たちが、できることから始めていこう」と。子どもたちに教えてもらうところがいっぱいあります。

環境問題にしても、大人は平気で物を粗末にし、投げ捨てています。地球の環境を守っていききたいなら決して捨てられないです。子どもたちは見えています。良いお手本を、背中を見せなくてはなりません。そして、大人はもつと子どもたちの声に耳を傾け、主張を受け止めていききたいものです。

よりよい社会に向け、子どもたちとともに未来ある社会を築いていきたいと思っています。

「社会に向けて」を読んで

玉造 貴美代

高須さんの未来に向けて、自分たちの主張を社会に伝える必要があると感じていることは、私たち大人がやらなければいけないことに改めて気づかされました。高校生の視点で環境問題の重要性や、地球の温暖化の問題を真剣に考え、これから自分たちが取り組む課題に向け、小さな一歩から行動しようとする姿勢には感心しました。

SNSなどの社会とのつながりを強め、みんなが平等に扱われる社会であつてほしいと願う思いには、これからの未来に夢と希望が持てることを祈ります。

高須さんが大人の方々に寄り添ってほしいという声は、大切にしなければと考えさせられました。

青少年の主張大会 作文集を読んで

実穂

青少年の主張大会作文集を読ませていただき、皆さん身近な出来事から自分を感じとった事、影響を受けた事を未来に向けて発表できた大会だったのだろうと感じました。

「挨拶の力」を読んだ時は、(そうだよね)と共感する気持ちでした。

私は、職場へ行き事務所へ入る時、はっきりとした声で「おはようございます」と挨拶します。人として、大人としての常識をコミュニケーションで取り易くできると思うからです。

「挨拶には愛がある」この言葉を私は知りませんでした。明日からは、この言葉を心に置いて、挨拶していこうと思いました。素敵な青少年の主張でした。ありがとう。

未来を共に生きる青年たちへ

佐藤 敏子

身近な出来事から社会問題に至るまで多岐に渡る主張を目にし、遠い昔に置き去りにした熱い想いが再び湧き上がってくる。

今回テーマとなっている教育格差、紛争、環境汚染などは私の青年期にはすでに存在し、未だ解決をみない問題である。科学や技術が進歩するスピードとはかけ離れ、解決には膨大な時間と人手を要する難題だ。今後正解を模索しながら議論を繰り返していかなければならないと考える。その大きな問題に対し、身の回りの出来事から気付きや学びを得て、すでに具体的に動き出した青年たちの行動から学ぶべき事は多い。大きな問題も解決への

道は、身の回り半径五メートルの改善から始まるのかも知れない。

君たちとより良い未来を生きたために、そして創るために今私がすべきことを改めて考える良い機会になったことに感謝申し上げます。

最後に、君たちが起こす小さな風がやがて大きなうねりとなり世界を席巻する未来を信じ、共に手を携えしなやかにしたたかに生きたいと切に願う。

応援しています

——同窓生より——

U・M

大会に出場された10名の皆さん、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

私は、十代の皆さんの若い素直な声と力を聞き、感じることでできるこの催しを、毎年楽しみにしています。特に同じ同窓生として、今の江戸崎総合高校生はどんなことを考えているのか興味があります。

地元の食材を生かし、非常食を考えた福島さん。オリジナルな発想、すばらしいです。ふるさと稲敷への貢献にもつながります。そして、社会に向けての自分の考え、意見を発信していきたいという高須さん。あなたがたの声をたくさん発信して、大人の私たちに聞かせてください。

稲敷市内には、江戸崎高校・江戸崎西高校・江戸崎総合高校の卒業生がたくさんいます。今の高校生の考えや活動を応援したいと思っている大人はたくさんいるはずです。もちろん、私もその一人です。

どうぞ安心して声を聞かせてください。

毎月第3日曜日は 「家庭の日」

茨城県では家族のきずな、家庭の養育力の重要性について、県民のみなさまにご理解をいただくため、昭和40年7月より、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、「明るい茶の間運動」として、普及啓発を行っており、平成17年度からは、「家庭の日」フォーラム等を開催し、家庭、学校および地域など、あらゆる場において、広く働きかけています。

皆様も、「家庭の日」には、家族そろって食事や買い物をしたり、スポーツ・レクリエーションを楽しんだり、家族で過ごす時間をできるだけ増やしてみてください。

令和6年度「家庭の日」絵画・ポスター 作品紹介



「かぞく5人でやったはなび」

あずま東小学校 1年 みやもと いろは 宮本 彩羽



「家族で川遊びに行ったよ」

あずま東小学校 2年 もと ひろまさ 本戸 瑞祥



「家族でごはん」

あずま東小学校 2年 ましこ 益子 ひまり

テーマは「家庭の日」を周知・啓発する内容、家族で過ごした思い出などを描いた作品になっています。

第10回

稲敷市子ども会育成連合会
青少年育成稲敷市民会議

ボランティア清掃活動

拾ったら
きれいになったよ!



2月8日(土)、今年度は桜川地区のボランティア清掃活動となり、浮島和田公園グラウンド駐車場に集合しました。子ども会の親子をはじめ、150名近い方にご参加いただきました。

当日は青空が広がるものの、霞ヶ浦からの風は冷たく、それでも子どもたちの元気な声に励まされ、子ども会育成連合会の澤邊会長のご挨拶をいただき、Aルート・Bルートに分かれ約2.5キロメートルの清掃活動を行いました。

浮島はおだやかな田園風景が続き、自然と触れ合いながら、道路沿いのタバコの吸殻、人気のないところに捨ててあるペットボトルや空き缶など、子どもたちも一生懸命ごみを拾ってくれました。故意に捨てられたごみも多く、捨てる人はいつになったら人としてのマナーが身に付くのだろうと心を痛めました。



梅の花もちろほら顔を見せ、2歳の男の子もお母さんと手を繋ぎ楽しげに歩いていました。最初に声をかけた少年は、桜川小学校に通っていると言い、お父さんと仲良く拾ったごみを袋に入れていました。

ゴール地点に近づくとお母さんが「長い距離と思っていたけれど短かった」と言っていました。普段とは違う自然の中を歩いたからだと思いました。ごみ拾いを通し、自然環境への意識、また、家族とのふれあいが生まれ、実り多い活動になったことでしょう。活動の最後は、青少年育成稲敷市民会議の和田会長にご挨拶をいただき、閉会となりました。

参加者の皆様、活動にご協力いただいた方々に心よりお礼申し上げます。

(篠田)



令和6年度

あいさつ運動等活動報告

青少年育成稲敷市民会議では、「あいさつには“あい”がある」をテーマに市内小・中学校で市内の各団体にもご協力いただき、あいさつ運動を実施しております。今年度は、7月に延べ285名、11月に延べ223名の方が参加しました。

あいさつは、人と人とのつながりのスタートでもあり、青少年を健全に育成するために必要不可欠です。今後も継続して事業を行うにあたり、みなさまの益々のご理解とご協力をお願いいたします。



江戸崎小学校



新利根小学校



桜川中学校



東中学校

青少年育成稲敷市民会議では、青少年の健全育成を目的とした4種類の啓発のぼり旗を作成し、10月に市内園・小・中・高校へ配付しました。



篠田 啓子(広報部長)
和田 克典
糸賀 妙子
寺崎 久美子
白田 京子

塞ぐ子に挨拶すれば梅ひらく

子どもたちに出会った時は必ず声を掛けようようにしている。うつむいて歩いていた子も一瞬笑顔で「さよなら」と返してくれ、たわいない一言を添えてまた返し、ひとときの心のキャッチボールが生まれる。挨拶は心を開くことと誰かが言っていた。身近な青少年に惜しみない声掛けを……

子どもたちが好んで守りたい気持ちでここまで来れたことを実感する。

WAKAKUSA
2025.03 No.37

編集後記



新しいものが増えるたび古いものへの愛情が増す。何か世の中に無機質なものが多くなり、やはり守るべきものは守らなければならぬという思いが沸々と湧いて来る。風の匂いや四季折々の、たとえば消えかかるものを心にとどめ残したいと思う。抽象的になるが拙い文章力で表現したい。縁があり江戸崎町民会議より青少年育成稲敷市民会議へと広報に関わっているが、今年は市制施行20周年となり、いざ振り返ってみるとさまざまなことが思い出され、子どもが好んで守りたい気持ちでここまで来れたことを実感する。